

本書の特長と内容

本書は、科学的問いをもとにした上級日本語教材です。問いについて「調べる・考える・伝える」活動を通じて、日本語能力試験 N1 合格に必要な言語知識を身につけ、アカデミックなテーマについて思考を深め、日本語で表現できる総合的な日本語コミュニケーション能力育成を目指しています。難易度は、日本語能力試験 N1 レベル合格を目指す学生、また、すでに N1 を取得し言語知識や社会文化知識の運用力を高めたい学生に対応しています。

本書の理念

① 「調べる・考える・伝える」活動へと導く構成

本書の姉妹教材として『上級日本語教材 日本がわかる、日本語がわかる ベストセラーの書評エッセイ24』（凡人社）があります。この教材は日本でベストセラーになった書籍の書評を読みながら、日本語や日本社会についての理解を深めることを目的とした読解教科書です。本書は前掲書での学びをさらに発展させることのできる「探究・活動型教材」として開発されたものです。そのため、読者が言語知識を獲得しその運用能力を養うだけでなく、各テーマについて自身の考えを深め、調べ、他者と対話・探究する活動へと導く構成になっています。

② アカデミック・ジャパニーズを育成するための多種多様な活動

本書では、思わず考えたい科学的問いをテーマに据え、深く考えるためのアクティビティ、クリティカルな視点で書かれた本文、430の学術語彙と196の教師・学習者選定語彙（N1相当）の解説、187の社会文化的な情報の注釈、言語知識の獲得と内容理解を促すための設問、言葉の運用力育成のための発展活動等を独自に開発しました。さらに、本書を刊行する凡人社の公式Webサイトを通してオンラインで利用可能なワークシートや音声教材も配信することで、アカデミック・ジャパニーズに多角的にアプローチできる教材となっています。

③ 知的好奇心に対応する内容と日本語の言語的要素を両立

上級の学生から聞かれる声の一つに教科書の本文が「おもしろくない」というものがあります。もちろん、個人の好みにも影響されますので一概には言えませんが、日本語学習を重視し、言語知識に焦点化して編纂された教科書ほどこの声は顕著になります。一方、新書など生教材を使った授業では、学生の興味・関心には合致するものの、語彙や表現の学習に配慮することは比較的難しく、授業において効果的な日本語学習を保障することは困難とされます。

読解授業において本文を読んだ後に充実した活動を展開するためには、読解素材に書き手の主張が明確に提示され、それが読者の知的好奇心を刺激するものになっている必要があります。本書では、発展的な活動へと展開することを念頭において書き下ろされた本文の中に、コーパスやデータベースなど科学的な方法で抽出された学術語彙を組み込み、さらに文法知識に関するコラムを準備することで、学生の知的好奇心に応える内容と効果的な日本語指導の双方を実現しています。このことにより、興味深く学ぶ過程において語彙や文法、表現の学習を効果的に行える教材となっています。

科学の問いへの目次

『日本語で考えたい科学的問い』（凡人社）シリーズでは、次の15の科学的問いを取り上げています。

上巻〔文化と社会篇〕

- Lesson 1 グループに分かれた争いを人間はいかにしてやめられるのか？
- Lesson 2 「多文化共生」は寛容な社会を作るのか？
- Lesson 3 人はなぜ「うわき話」が好きなのか？
- Lesson 4 グループ討議はアイデアの生産性を高めるのか？
- Lesson 5 テクノロジーは思想や文化とは無関係に発展するのか？
- Lesson 6 人工知能はどこまですごいのか？
- Lesson 7 スポーツで「地元チーム」が勝ちやすいのはなぜなのか？
- Lesson 8 芸術はどのようなメカニズムで人の心を動かすのか？

下巻〔心と身体篇〕

- Lesson 9 日本語は曖昧で非論理的な言語なのか？
- Lesson 10 「失語症」の症例から我々は何を学ぶことができるのか？
- Lesson 11 社会の「絆」は人の心を救うことができるのか？
- Lesson 12 紙の本、手書きのノート、対面での会話は時代遅れなのか？
- Lesson 13 頭脳明晰な人々も大きな失敗をするのはなぜか？
- Lesson 14 人はなぜ「陰謀論」を信じるのか？
- Lesson 15 人は「未来の自分」をどこまで想像できるのか？

これらの問いはいずれも、現代の社会や文化、人の心や身体を理解するための切り口であり、学術的に考え表現する上でとても効果的なトピックです。各レッスンでは、問いについて考えるための研究が紹介され、それをを用いて科学的に考えるための材料が提供されます。レッスンで紹介された理論や概念を学術的な言葉の学習をしながら理解し、自らも考え他者と対話することで、理解語彙を使用語彙にしながらより科学的な思考方法を身につけることができます。順番に学習することももちろん可能ですが、それぞれのレッスンは独立しているため、興味関心に応じて自由に選んで学習するモジュール型教材として使用することも可能です。

